

## 相模女子大学 科目ナンバリング実施マニュアル

### 科目ナンバリングの目的

科目ナンバリングとは、文部科学省により「授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み」(※1)と定義されています。同じカリキュラム内の個々の科目にナンバーを付与することで、この科目がどのような分野に属しているのか、履修レベルはどの程度なのか等の情報を一見して把握することができます。

現在、「教育課程の体系化」は各大学で喫緊に実現すべき課題とされています。中央教育審議会答申「学生課程教育の構築に向けて」(※2)および、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(※3)の中でも、その必要性が指摘されています。

科目ナンバリングを実施する最大のメリットは、この“教育課程の体系化”に有効であるという点です。科目ナンバリングの採番作業を行う中で、「特定の分野に科目が集中している」「科目の分野が多岐にわたり、学修の到達点が見えにくい」といったカリキュラムの弱点が可視化されるため、問題点を適切に改善することができるからです。このように、科目ナンバリングはカリキュラムの《検証》と《改善》に大きな効果を発揮し、より洗練されたカリキュラムの策定が可能となります。

また、科目ナンバリングを実施することで、同様に科目ナンバリングを実施している他大学の科目と本学の科目の位置づけを比較できるため、編入時の単位認定が容易になります。さらに、海外からの留学生や海外への留学を希望する学生の単位互換も容易になります。ただし、現段階では、公に規定された番号付与のルールが無いため、各大学が独自のルールに則り番号を付与している状況です。そのため、現状では、海外の大学を含めて、大学間でどの程度正確に科目同士を比較できるのか課題が残りますが、今後科目ナンバリングの制度が整備されることで、より実用的な活用が期待されます。

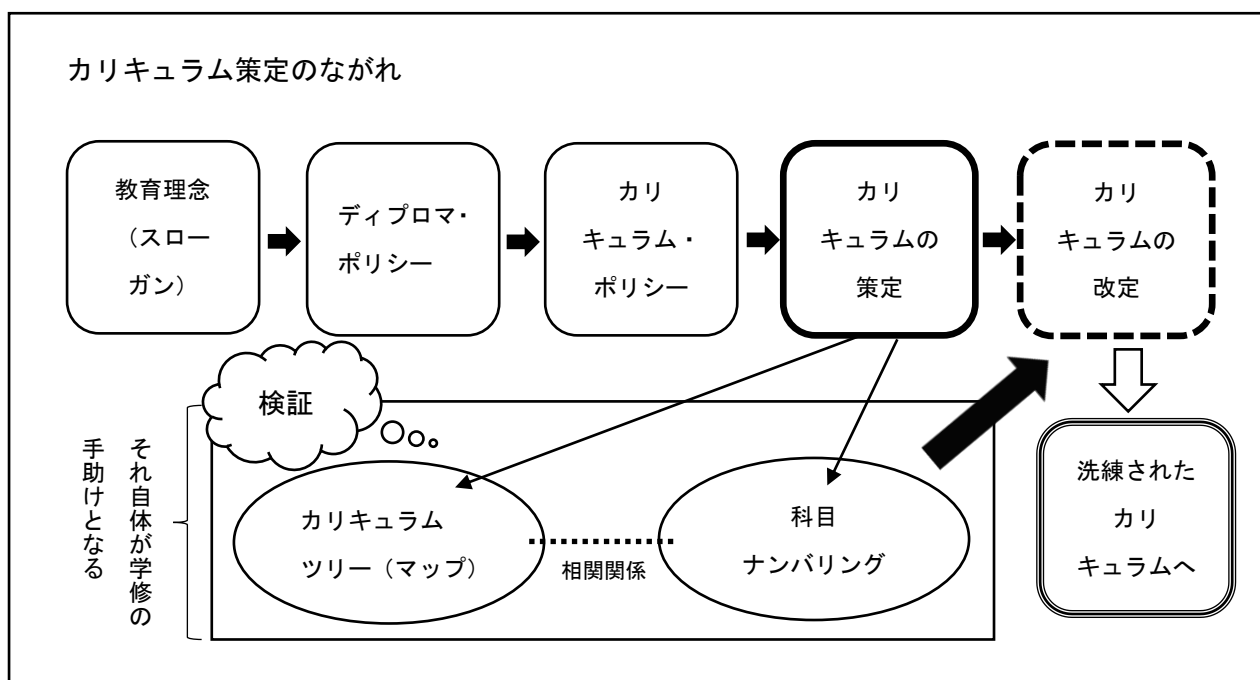
### 科目ナンバリングの実施と、カリキュラムの《検証》と《改善》について

科目ナンバリングはナンバーの採番がメインの作業ではありますが、ナンバーをもとにカリキュラムの《検証》と《改善》を行うことも同様に重要な作業です。

本来カリキュラムは、教育理念(スローガン)および、ディプロマ・ポリシーで定める能力を身に付けた学生を輩出するため、カリキュラム・ポリシーに則り策定されているはずですが、しかしながら、「学生課程教育の構築に向けて」(※2)の中で、「かねて我が国の学士課程の教育課程については、科目内容・配列に関して個々の教員の意向が優先され、必ずしも学生の視点に立った学習の系統性や順次性などが配慮されていない、あるいは、学生の達成すべき成果として目指すものが組織として不明確である、などの課題が指摘されてきた」とあるように、各大学で

必ずしも洗練されたカリキュラムが運用されていない可能性があります。しかし、科目ナンバリングおよびカリキュラムツリー（マップ）を実施することにより、この問題が明確になるため、改善点を的確に把握することができます。

なお、科目ナンバリングおよびカリキュラムツリー（マップ）は相関関係にあり、科目ナンバリングで定めた分類はカリキュラムツリー（マップ）上でも基本的に同群・同位置に表されるはずです。



## 相模女子大学における科目ナンバリングの実施方法

本学では、下記のながれで科目ナンバリングを実施します。

1. 科目ナンバリングの採番
2. 学内外での公開
3. 科目ナンバリングとカリキュラムツリー（マップ）およびカリキュラムの検証

### 1. 科目ナンバリングの採番

●●□□□▲◎◎ (8桁の英数字) 日文のみ一部例外有⇒別表2参照

●●	□□□	▲	◎◎
所属コード	分類コード	レベルコード	区別コード
本学で定める学部・学科および全学共通科目・専門科目等の種別を表す2桁の英数字。 別表1参照	3文字のアルファベットの。学問の分類を示すコード。原則として、科学研究費助成事業（科研費）の英語版細目名より定めたコードまたは全学部学科で共通して使用することを想定して定めた本学独自のコードを使用する。	1桁の数字。配当年次で設定する。 大学→1～4 短大→1・2	2桁の数字。 01～99で採番する。 補足：●●□□□▲までの英数字を1つのグループとみなし、グループ毎の末尾を01, 02…99までの数字を採番する。

例:「臨床心理学」(人間心理学科専門科目)の科目ナンバリング

22CLP101

●●	□□□	▲	◎◎
所属コード	分類コード	レベルコード	区別コード
22	CLP	1	01
人間社会学部 人間心理学科	Clinical psychology (臨床心理学)	1年次対象	-

### \*分類コードの設定ルール

科学研究費助成事業(科研費)の英語版細目名より定めた分類コードは、p.4以降にあるルールに則り決定しています。既定のコードで分類できない科目、ルールに則り該当科目が所属する学科または課程が新たに定めてください。

ルール	詳細
1	前置詞(at,the,of,in,for,on 等)、接続詞(and,or 等)、冠詞(a,the 等)は1語と数えない。 例1:1001 情報学基礎理論(The <u>o</u> ry of i <u>n</u> formatics)⇒THI 例2:2401 身体教育学(D <u>e</u> velopmental <u>m</u> echanisms and the <u>b</u> ody works)⇒DMB
2	細目名が3語以上で成り立つ句の場合
2-1	《細目名の中に“/”がない場合》 冒頭の3語より頭の1文字をあてる。 例:3204 日本語教育(J <u>a</u> nes <u>e</u> <u>L</u> angu <u>a</u> ge <u>E</u> ducation) ⇒ JLE
2-2	《細目名の中に“/”がある場合》 “/”で区切られた語または句より1文字以上をあてる(句の場合、先に出てきた句から優先して1語目の頭の1文字をあてる)。
2-2-1	《細目名の中に“/”あり、“/”は1つ、“/”前が2語以下の場合》 例1:1701 家政・生活学一般(H <u>o</u> me <u>e</u> conomics/ <u>H</u> uman life)HEH 例2:2601 基盤・社会脳科学(B <u>a</u> sic / <u>S</u> ocial <u>b</u> rain science)⇒BSB
2-2-2	《細目名の中に“/”あり、“/”は1つ、“/”前が3語以上ある場合》 例:1303 図書館情報学・人文社会情報学(L <u>i</u> brary and i <u>n</u> formation science/ <u>H</u> umanistic social informatics)⇒LIH
2-2-3	《細目名の中に“/”が2つ以上ある場合》 例1:1301 生命・健康・医療情報学(L <u>i</u> fe / <u>H</u> ealth / <u>M</u> edical informatics)⇒LHM 例2:4901 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理(P <u>a</u> r <u>t</u> icle/ <u>N</u> uclear/ <u>C</u> osmicray/ <u>A</u> stro physics)⇒PNC
2-3	条件2-1,2-2のとおり定めた分類コードが他で定めたコードと重複した場合
2-3-1	《細目名の中に“/”がない場合》 3文字目をとる際に、3語目の頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。ただし、母音(a,e,i,o,u)は避ける。 例:1602 持続可能システム(D <u>e</u> sign and <u>e</u> valuation of <u>s</u> ustainable and environmental conscious system)⇒DES (※)もしDESが別の分類コードと重複していたら、(D <u>e</u> sign and <u>e</u> valuation of <u>s</u> ustainable and environmental conscious system)⇒DETとする。
2-3-2-1	《細目名の中に“/”があり、“/”は1つ、“/”前が2語以上ある場合》 2語目の頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。ただし、母音(a,e,i,o,u)は避ける。 例:5603 電子デバイス・電子機器( <u>E</u> lectron device/ <u>E</u> lectronic equipment)⇒EVE
2-3-2-2	《細目名の中に“/”があり、“/”は1つ、“/”前が1語、“/”後が2語以上ある場合》

	<p>3語目の頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。ただし、母音(a,e,i,o,u)は避ける。</p> <p>例:分科 社会・安全システム科学(Social / Safety systemscience)⇒SSY</p>
2-3-2-3	<p>《細目名の中に“/”が2つ以上ある場合》</p> <p>3句目の頭の文字から優先して他と重複しない文字をあてる。</p> <p>(※)例:4906 生物物理・化学物理・ソフトマターの物理(Biological physics/Chemical physics/Soft matter physics)⇒BCF</p>
2-3-2-4	<p>《例外》</p> <p>分類コードが重複した細目名で、1語目、2語目、3語目の全てが同一の場合、1語目より頭の文字から2文字をとり、2語目より頭の文字から1文字をあてる。それでも重なる場合は、1語目の2文字目以降、頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。ただし、母音(a,e,i,o,u)を避ける。</p> <p>例:4903 物性Ⅱ(Condensed matter physics II)⇒CNM →4902 物性Ⅰ(Condensed matter physics I)⇒CMPと1～3語目の全てが同一。</p>
3	<p>細目名が2語で成り立つ句の場合</p>
3-1	<p>《細目名の中に“/”の有無を問わない》</p> <p>はじめの1語より頭から2文字、次の語の頭の文字より1文字をあてる。</p> <p>例1:1002 数理情報学(Mathematical informatics)⇒MAI 例2:1001 情報学基礎理論(Theory of informatics)⇒THI 例3:2901 哲学・倫理学(Philosophy/Ethics)⇒PHE</p>
3-2	<p>上記のとおり定めたアルファベット3文字が他で定めた3文字と重複した場合</p>
3-2-1	<p>《細目名の中に“/”の有無を問わない》</p> <p>2文字目を別のアルファベットに置き換える。1語目の2文字目以降、頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。ただし、母音(a,e,i,o,u)は避ける。</p> <p>例1:1201 認知科学(Cognitive science)⇒CGS (※)例2:3806 金融・ファイナンス(Money/ Finance)⇒MNF</p>
3-2-2	<p>《例外》</p> <p>アルファベット3文字が重複した細目名で、最初の語が同一の場合、同一の語からは頭の文字から1文字のみ、2語目から2文字をあてる。それでも重なる場合は、2文字目が母音(a,e,i,o,u)の方が母音を避け、2文字目以降、頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。両方とも2文字目が母音である場合、両方とも母音を避ける。両方とも母音ではない場合、細目番号の数字が多い方が3文字目を頭の文字から優先して他と重複しない分類コードに変更する。</p> <p>例1: 3101 日本文学(Japanese Literature) ⇒ JLT 3202 日本語学(Japanese Linguistics) ⇒ JLN</p>

	例2: 7902 生理学一般(General physiology)⇒GPH 7904 薬理学一般(General pharmacology)⇒GPR
4	細目名が1語の場合
4-1	頭の文字から優先して3文字をあてる。 例:1102 ソフトウェア(Software)⇒SOF
4-2	《4-1のとおり定めたアルファベット3文字が他で定めた3文字と重複した場合》 2文字目、3文字目を頭の文字から優先して他と重複しないアルファベットをあてる。 ただし、2・3文字目ともに母音(a,e,i,o,u)を避けて頭の文字から3文字をあてる。 例: 2101 地理学(Geography)⇒GGR 5004 地質学(Geology)⇒GLG
5	“-”を含む語については、1語と数える。 例1:5307 エネルギー関連化学(Energy-related chemistry)⇒ENC 例2:分科 農業工学(Agro-engineering)⇒AGR
6	“( )”内の語句は、3文字を抽出する対象の文字としない。 例1:7911 細菌学(含真菌学)(Bacteriology (including mycology))⇒BAC →1語の細目名と考える。 例2:8201 内科学一般(含心身医学)(General internal medicine (including psychosomatic medicine))⇒GIM →3語の細目名と考える。
7	分類コードを分科レベルで定めることを認める。分科の分類コードは既に別表3に定めているので、そちらを使用すること。
8	細目名同士で分類コードが重複した場合、数字が大きい方が重複しないコードに変更する。細目名と文科で分類コードが重複した場合、分科のコードを変更する。
9	分類コードは固有である必要があるため、同一の分類について異なるコードを設定すること、及び、別の分類について同一のコードを設定することはできない。本ルールは学部・学科の別を問わず有効であり、全学をとおして一分類につき1つの分類コードを定める。
10	複数の分類コードが候補にあり、どれを選択するかという判断は、①学問的な位置付け、②本学における科目の位置付け、③国家資格等で括られる科目の位置付け等の観点から検討し、最適な選択肢を学科で検討する(判断は学科に一任する)。
11	同じ科目名の科目であっても、学科によって異なる分類コードを指定できる。
12	コードシェア科目については、親の学科が該当科目の分類コードを指定する。

(※)について…別表3中に実際に定めている分類コードとは異なるが、例示のためにこの場に限り設定したコード。

## 2. 学内外での公開

本学 HP での公開および、Student Handbook への掲載を行います。

## 3. 科目ナンバリングとカリキュラムツリー（マップ） およびカリキュラムの《検証》

科目ナンバリングの採番完了後、カリキュラムツリー（マップ） および各種ポリシーとの相関関係について検証します。完成したナンバーをもとにカリキュラムの改善点等を洗い出すことは、今後のカリキュラム改定時により洗練されたカリキュラムを策定するために重要な作業となります。

以上

### ●参考文献

1. ※1 文部科学省（2012）「用語集」，

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf)（参照 2016-10-31）より引用

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリング。授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。①大学内における授業科目の分類、②複数大学間での授業科目の共通分類という二つの意味を持つ。

対象とするレベル（学年等）や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなる。

また、科目同士の整理・統合と連携により教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。

2. ※2 文部科学省（2008）「学士課程教育の構築に向けて（答申）平成 20 年 12 月 24 日中央教育審議会」，

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf)（参照 2016-10-27）より引用

かねて我が国の学士課程の教育課程については、科目内容・配列に関して個々の教員の意向が優先され、必ずしも学生の視点に立った学習の系統性や順次性などが配慮されていない、あるいは、学生の達成すべき成果として目指すものが組織として不明確である、などの課題が指摘されてきた。個々の科目についても、その目標や、内容・水準が判然としないことがあり、単位の互換性や通用性の面でも、支障が生じかねない。

多様な科目から場当たりの選択がなされる、あるいは中核となる科目の位置付けが曖昧であるならば、学生の学びは、狭く偏るか、逆に散漫になり、学生の到達すべき学習成果として想定していたものは達成されない。

…（略）…

学習成果や教育研究上の目的を明確化した上で、その達成に向け、順次性のある体系的な教育課程を編成する（教育課程の体系化・構造化）。

教養教育や専門教育などの科目区分にこだわるのではなく、一貫した学士課程教育として組織的に取り組む。専攻分野の学修を通して、学生が学習成果を獲得できるかという観点に立って、教育課程の体系化を図る。その際、

例えば、科目コード(履修年次等に応じて付記)による履修要件の設定や科目選択の幅の制限等も検討する。

3. ※3 文部科学省(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)平成24年8月28日中央教育審議会」,

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf) (参照2016-10-31)より引用

大学、学部、学科の教育課程が全体としてどのような能力を育成し、どのような知識、技術、技能を修得させようとしているか、そのために個々の授業科目がどのように連携し関連し合うかが、あらかじめ明示されること。なお、大学としての学位授与の方針に対して授業科目数が過多であったり、科目の内容が過度に重なっている場合は、その精選の上に体系化が行われる必要がある。また、科目を履修する学生をはじめ、当該大学、学部、学科等が提供している教育課程の内容に関心を持つ全ての人に教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号をつける(ナンバリング)など、教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫が必要である。

4. 田中正弘(筑波大学)「科目ナンバリング作成について」,

[http://www.u.tsukuba.ac.jp/~tanaka.masahiro.ft/Tanaka/Masahiro\\_Tanaka\\_2015\\_12\\_03.pdf](http://www.u.tsukuba.ac.jp/~tanaka.masahiro.ft/Tanaka/Masahiro_Tanaka_2015_12_03.pdf) (参照2017-3-21) ⇒資料3

5. 北海道大学教育改革室(2013.6)「順次性のある体系的な教育課程の構築に向けて～ナンバリング実施の手引き～」,

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/numbering.pdf> (参照2017-3-21)

6. 同志社 大学学修支援・教育開発センター「科目ナンバリング」,

<http://clf.doshisha.ac.jp/numbering/numbering.html> (参照2017-6-1)



